魔方陣（ほし）に願いを

青い絵　八代

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
魔方陣（ほし）に願いを

【Ｎコード】
Ｎ７３１０Ｙ

【作者名】
青い絵　八代

【あらすじ】
千年のときを越えて、現代に降り立つ魔法使い。
黒き闇の中、最初の魔方陣を描く。
そう、とても優雅に。
しかし、優雅すぎたのか、桃野マリモという能天気少女が偶然通りかかった。いきなりのトラブルに、戸惑う僕こと、ファウンは。
それにしても、マリモは勘がよすぎで…正体がばれる。

第一話　星の魔方陣（前書き）

魔方陣だ、魔法だ、超魔法だ。

第一話　星の魔方陣

僕は、現世に来た。
千年の時を越え、ついに来た。
僕は、魔法使いだ。名前は、ファウン。ある理由があって、この時代、２０００年代に来たのだが…。
そのためには、まず世界を見渡す必要があった。

共里越公園、午後七時。僕は、ここの地面に魔方陣を書き始める。この魔方陣は、世界を見渡すという目的で使うこともできるし、世界から何かを呼び出す目的で使うこともできる。
千年の時を超えているので、やたらと見慣れないものが多い。
しかし、次第に分かってくる。
やはり、この世界には無くさなければいけないものがいくつかあった。
それは、この世界にある間違いの一つ、不平等と言うものである。要するに、言ってしまえば、世直しのためにこの時代に来たのだ。
まあ、こういう行動も非難されるべきものではあるが、いろいろあってしたい行動だ。
僕は、久しぶりに空を見上げた。
のんきとしか言いようが無いが、僕としてもこの世界が新鮮で心動かされるのだ。
ここは、東京と言う街らしい。
なんとなく、胸躍る世界だ。
おっと、そろそろ魔方陣を消さねば。
と思っていると、そこには人が居た。
「ぐあああああ、誰だ、キサマ。それを見たな！！　」
「おっ、やあ。あたしは、桃野マリモ。不思議な魔方陣だね、映像

が見える」

「この秘密を知ったからには、お前の正体を暴く」
僕は、魔方陣にその女について情報を求めた。
しかし、何にも映らない。
――こいつ…一体何者だ。
「もしかして、魔法使い？　」

ばれた。
常識的にありえないだろ。
「そうだよ」僕ははっきり言った。「ったく、こうなったら…」

とりあえず、手駒にしておこう。
この時代に来て、早速トラブルか。
「魔法って、どうやって使うの？　」

「絶対に、教えない！！　」

「ホントに魔法使いなんだね」
僕は、その少女について、地道に考えていたが。
どうやら、勘がいいようだ。
仕方ないので、魔法についてじゃなく、ここに来た理由とかについて話すことにした。
「しょうがない。僕がどういう存在かと言うと、千年前の世界から来た魔法使いだ」

「あっ、時空を越えた魔導師的な？　」

「ああ、君が言うとおりだ。正直、平安の世界はつまらなくってね。一人で魔法の勉強をしていたんだ」

「でも、現代には、魔法って無いけど」
「魔女狩り…みたいなのがあってね」
「へー」
「真面目に聞いているのか」
「いや、興味が沸いてきちゃって」
なんか、このマリモっていう奴、ポジティブだ。
ちなみに、僕はネガティブに近いから、こんな世直ししようとしているんだが。
「何のために、この時代に？　」
…、話すべきだろうか。
これを話すと、どうしてもこの世界への干渉が公になってしまう。
「えーっと、観光かな」僕は、ウソをついた。
「おお、うらやましい」
「良ければ、近くに宿は無いかな？　」
「あー、あたしのうち旅館だよ」
意外な展開だ。
「冗談だろ？　」
「本当だよ。良かったら来てよ。最近人が少なくなっちゃって」
「ああ、それは良かった」

「良くないよ。人が来ないんだよ。来ないってどういう意味か、分かってる？」

「売れない旅館てことだね」

仕方ないので、急いで魔法陣を消して、桃野マリモ推測１６歳の家の旅館に行くことに。

なんか、嫌な予感。

…。

…。

僕は、その後いろいろマリモの親達に挨拶し、状態を説明して、一つ部屋を借りた。

マリモは、颯爽と去っていった。マリモは高校生なので勉強があるらしい。

全く、厳しい親だ。まあ、僕にとっては、なんでもないが。

「魔方陣、完成」

僕は、星の魔方陣を書いた。

この魔方陣は、願いをこめることができる。

僕は願う。

「僕にこの世界の業を教えてくれ」

業…。

この言葉が、僕のここに来た訳。

そして、この業が、ふとしたことで世界をも変えてしまうことを、僕は知らなかった。

未来が、変わる可能性。

それが、存在していたのだ。

第一話　星の魔方陣（後書き）

久しぶりの投稿なので、見てもらえるといいなと思っています。
これは、どんどん続きを書いていきますので。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n7310y/

魔方陣（ほし）に願いを

2011年11月21日23時47分発行